

県下の交通事故 (2月末現在)

| 区分  | 事故件数           | 死者             | 傷者             |
|-----|----------------|----------------|----------------|
| 46年 | 858件           | 35人            | 1,213人         |
| 47年 | 834            | 27             | 1,202          |
| 比較  | -24件<br>(2.8%) | -8人<br>(22.9%) | -11人<br>(0.9%) |



第20号

発行所  
甲府市丸の内一丁目6-1  
財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 甲府 (0552) (35) 2121 内線328

あふないノ車の下に坊やが……  
敷島町 花形 達氏撮影



春の全国交通安全運動

4月6日から4月15日まで

スクール・ゾーンを設定

こどもの安全確保に重点

四月六日から十五日まで十日間、春の全国交通安全運動が行なわれることになりました。今回の運動は、歩行者事故、とくに児童、園児、幼児の交通事故を防止するために、県下全小学校の周辺に、いわゆるスクール・ゾーンを設定し、交通規制、交通安全施設の点検整備等を重点的に行なうほか、こどもと保護者に対する指導を「母親ぐるみ」の形で推進することになっていますが、その実施事項などはつぎのとおりです。

県下全小学校周辺に「スクールゾーン」

母親ぐるみで安全指導

この運動は、歩行者、運転者、運送者の雇主、その他陸上交通に関するすべての者に、交通安全思想の周知徹底をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかることを目的とする。

◇期間  
準備期間 自三月二十七日  
至四月五日  
実施期間 自四月六日  
至四月十五日

目的

この運動は、歩行者、運転者、運送者の雇主、その他陸上交通に関するすべての者に、交通安全思想の周知徹底をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかることを目的とする。

主唱

山梨県 市町村  
山梨県警察本部  
山梨県教育委員会  
山梨県交通安全対策本部  
山梨県交通安全推進協議会  
財団法人山梨県交通安全協会

重点

歩行者事故、とくに新入児童、園児および幼児(以下こどもという)の事故を防止するため、つぎの事項を中心として実施する。

(一)スクール・ゾーンの設定  
A 一般スクール・ゾーンの設定  
B 県下全小学校の周辺にスクール・ゾーン(とくに、こどもの交通安全をはかる特定地域で、小学校を中心とするおおむね半径五〇〇メートル以内の範囲)

その目的

幼児、児童を交通事故の被害から守るとともに安全確保を図るため、各小学校を中心としておおむね半径五百メートル以内の範囲を、交通安全活動推進地域として定め、自動車等の通行制限、安全施設の整備および広報活動などを積極的に行なう地域をいう。

○どのような方法でやるか

その目的

幼児、児童を交通事故の被害から守るとともに安全確保を図るため、各小学校を中心としておおむね半径五百メートル以内の範囲を、交通安全活動推進地域として定め、自動車等の通行制限、安全施設の整備および広報活動などを積極的に行なう地域をいう。

その目的

幼児、児童を交通事故の被害から守るとともに安全確保を図るため、各小学校を中心としておおむね半径五百メートル以内の範囲を、交通安全活動推進地域として定め、自動車等の通行制限、安全施設の整備および広報活動などを積極的に行なう地域をいう。

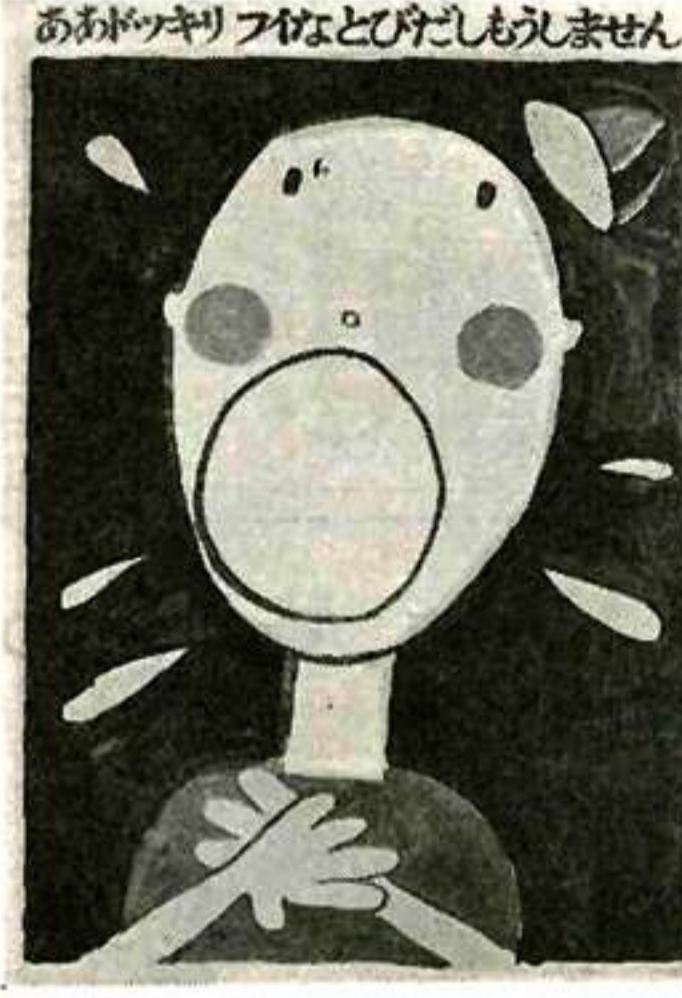
その目的

幼児、児童を交通事故の被害から守るとともに安全確保を図るため、各小学校を中心としておおむね半径五百メートル以内の範囲を、交通安全活動推進地域として定め、自動車等の通行制限、安全施設の整備および広報活動などを積極的に行なう地域をいう。

として設定し、こどもの交通事故防止のための看板等の掲出および地域住民、自動車運転者等への周知徹底をはかることも、交通指導を重点的に実施する。

特定スクール・ゾーンの設定  
A 交通量の発生状況および自動車交通量等から勘案し、別記九つの小学校周辺道路を特定スクール・ゾーンとする。

この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を地域職員の推進するものとする。



とくに、市町村の交通安全協議会組織を中心として、関係機関、団体が連携を密にし、具体的な実施計画を作成し、その周知徹底をはかることと、地域住民の協力体制の確立をはかること。

スクール・ゾーンの設定  
地域内においては、つぎの事項を実施する。

A 通学、通園路およびこの道の事故防止上、とくに措置を講ずる必要がある道路については、歩行者用道路の設定を促進し、こどもの交通安全を確保するための交通規制を強力に実施するとともに、交通安全



きょうも なかよく 信号をよくみて  
南甲府署 神宮寺 守氏撮影

黄色い腕章を贈る

新入学児童全員に

山梨県交通安全協会では、こどもと山梨県警察と協力して、県下の新入学児童全員に、黄色い交通安全腕章を贈ることになりました。これは、新入学児童がこの腕章をつけることにより、自覚と注意心をよび起こし、また、運転者や一般通行者の方々に、黄色い腕章の子どもには特別の注意と保護をお願いしたいとの念願によるものです。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、甲府市内の分については、例年のとおり富士銀行が作って配付いたします。また、山梨中央銀行では、交通安全の下敷一四、〇〇〇枚を作製し、新入学児童に配付します。山梨県交通安全推進協議会では、交通安全のワッペンを県下の幼稚園、保育園の園児全員に配付することになっています。

等々の民間団体および地域住民が一体となつて、交通安全パトロール、街頭指導等の活動を積極的に行なうことと、街角、家庭、学校、幼稚園等あらゆる場所において、こどもと保護者に対する交通安全指導を重点的に推進すること。

この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を地域職員の推進するものとする。

この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を地域職員の推進するものとする。

# 第十二回交通安全全国国民総ぐるみ運動中央大会

## 交通事故絶滅を誓い合う

### 稲葉嘉幸副会長に緑十字銀章

全日本交通安全協会の主催による、第十二回交通安全全国国民総ぐるみ運動中央大会は、一月十九日、二十日



の両日東京で開催されました。第一日は、地域組織、職域組織、運転者、婦人、子どもの五部会に分かれて、半蔵門会館、日本都市センター、都道府県会館、全国町村会館の四会場で討議が行なわれ、山梨県交通安全協会の中村太郎会長は、地域組織部会の議長をつとめられました。第二日は、日比谷公会堂において本会議が開かれ、出席者は三千人を超え、本会議には、常陸宮、同妃殿下がご臨席になり、おことばを賜ったほか、内閣総理大臣、衆・参両院議長、国家公安委員長の祝辞、外国友誼団体からのメッセージ等があり、また、前日各部会で討議された事項について、各部会の議長から報告が行なわれ、これに基づいて、大会の決議宣言が行なわれました。さらに、交通功労者、優良運転者等の表彰が行なわれ、本県関係の被表彰者はつぎのとおりでした。

- 交通安全功労者(緑十字銀章) 山梨県交通安全協会副会長 長 南部交通安全協会会長 稲葉嘉幸
- 交通安全功労者(緑十字銀章) 山梨県交通安全協会副会長 長 稲葉嘉幸
- 交通安全功労者(緑十字銀章) 山梨県交通安全協会副会長 長 稲葉嘉幸

### 宣言

交通安全は、世界の願いである。これは、人類の果すべき最大の課題であり、重大な社会問題である。われわれは、交通事故の防止を念じて、昭和三十六年以來、毎年初頭にこの中央大会を催し、民間活動としての立場から、国民総ぐるみ運動を展開してきた。しかし、昨年の交通事故は減少を示したとはいえず、な

お、遺憾ながら、死者において一万余、負傷者において九十四万を越えるという、痛ましい結果となっている。われわれは、この冷厳な現実を直視し、交通安全に対する社会的責任の重大さに思いをいたし、地域、職域、家庭その他すべての分野において、交通安全の意識を高揚し、その実践に立ちあがらなければならぬ。ここにわれわれは、昭和四十七年の初頭に当たり、第十二回交通安全全国国民総ぐるみ運動中央大会を開催し、決意を新たにして、つぎの事項を実践することを誓う。

- 一 社会の未来を担う幼児に対し、深い愛情をこめて、これを保護すること
- 二 社会の建設に貢献した老人に対し、尊敬と感謝をこめて、これを保護すること
- 三 自動車を使用する者は、事故をおこさず、事故を防ぐことに、最善を尽くすこと

右宣言する。  
昭和四十七年一月二十日  
第十二回交通安全全国国民総ぐるみ運動中央大会



### 安全運転教育指導員講習会開催

全日本交通安全協会の主催による安全運転教育指導員講習会は、今年も二月二十四日、二十五日の両日、東京の半蔵門会館において開催され、本県関係では、つぎの八名の人たちが出席されました。

- 甲府タクシーK K業務部長 岩間 力雄
- 山梨スズキ販売K K営業部長 小糸 好久

- 山梨交通株式会社 運転者 小林末雄
  - 交通安全優良地域団体 石和交通安全協会 交通安全優良学校 高根東小学校
  - 山梨県交通安全協会 地域組織部会 中村 太郎
  - 山梨県交通安全協会 職域組織部会 主幹 中島健治
  - 山梨県警察本部交通安全課 玉川 探
  - 山梨県交通安全協会 専務理事 吉田文男
  - 運転者部会 石和交通安全協会 岩間 茂
  - 交通安全優良地域団体 石和交通安全協会 窪田博資
  - 山梨県交通安全協会 山梨県交通安全協会の会 連合会長 浅川くまの
  - 山梨県交通安全協会の会 会長 遠藤喜代子
- 原動機付自転車も、必ず自動車損害賠償責任保険に加入してください。加入しないで運転すると処罰されます。また、万一、加入しないで事故を起こし、人を死傷させたら、損害賠償でたいへんなことになります。

## 交差点内を自由に

～スクランブル方式とは～

### 甲府市内でも実施

スクランブル方式とは、交差点の車両向け信号を全部「赤」にしてすべての車を一時ストップさせ、その間は、交差点の中を人が自由に渡れるようにする。そこでは斜め横断も安全にできる方式である。スクランブルとは、卵などをかきまぜて煮ること。エッグという。交差点のナベの中で、歩行者が縦、横、斜め、入り乱れて動くのを形容している。この「いり卵方式」が、今、この「いり卵方式」が行なわれるようになり、山梨県でも、甲府の県民会館前で試みられている。

スクランブル方式とは、交差点の車両向け信号を全部「赤」にしてすべての車を一時ストップさせ、その間は、交差点の中を人が自由に渡れるようにする。そこでは斜め横断も安全にできる方式である。スクランブルとは、卵などをかきまぜて煮ること。エッグという。交差点のナベの中で、歩行者が縦、横、斜め、入り乱れて動くのを形容している。この「いり卵方式」が、今、この「いり卵方式」が行なわれるようになり、山梨県でも、甲府の県民会館前で試みられている。

「いり卵」のほか、道路の路面のペンキ標示、自動信号機の系統化、一方通行など、次々に新方式をみ出し、デンバー市在任中六年間に、歩行者の事故死を、年間一七人から二九人に減らすことに成功している。

能力が買われて、デンバーからボルチモア市へ、次はニューヨーク市へと、次第に大都會の交通局長に迎えられる、各地で腕ふるい交通安全に貢献した。

一面より

- ◆特定スクールゾーン設定小学校 伊勢小学校 甲府市立 塚家小学校 富士吉田市立下吉田第一小学校
- 都留市立谷村第一小学校 山梨市立加納岩小学校 韮崎市立 崎小学校 大月市立大月東小学校 塩山市立塩山南小学校 上野原町立上野原小学校

## 夜更けの急救車

宮野 貢 作詩  
一瀬 公弘 作曲



童謡

### 夜更けの急救車

宮野 貢 作詩  
一瀬 公弘 作曲

たのしい夢が ふと消えて  
ピーポーピーポー 音がする  
あれは夜更けの 急救車  
どこへ行くのか 急ぐのか  
毎日交通 事故ばかり  
ピーポーピーポー 音たてて  
走る夜更けの 急救車  
とおどい命 たた一つ  
だんだん小さく 遠くなる  
ピーポーピーポー 音がする  
町の夜更けの 急救車  
運転する人 御苦労さん

# 母親の寝物語りて教える

英国で幼児の交通安全教育に効果的といわれている「タフティ・ブック」というのがあります。日本でも山形ではこれを手本として米沢市に三つの「カモシカ・クラブ」というのが出来ました。さて、そこで、そのタフティ・ブックのテキストである「タフティ・ブック」を紹介することにしましょう。

タフティ・ブックは、毎月一回の集合教育のときに教本として使用されている

## タフティで幼児を安全に

### 幼児教育は母親教育である

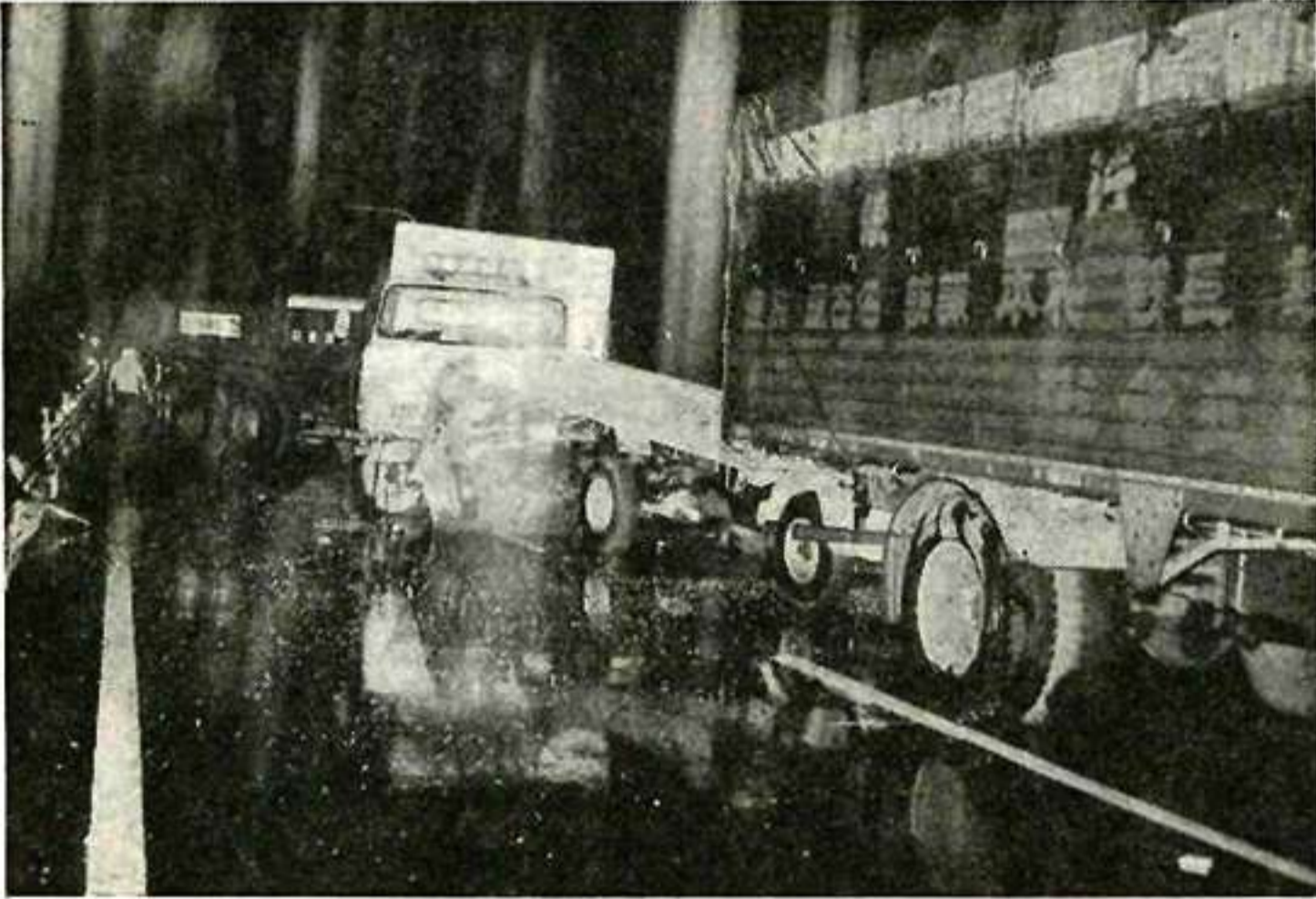
ばかりでなく、母親が幼児を寝かしつけるときなどに、毎晩必ず読んで聞かせるように使用されています。月一話の構成になって、スリルとサスペンスもあつて、幼児の興味をひくような内容の話になっています。文章も読みやすく、わかりやすく、耳への音感もリズムにきこえるように工夫された文章で、絵になつていないのも、幼児の絵本と変わりません。毎晩くり

かえし幼児に読んで聞かせることによつて、道路の安全な通行についての基本概念がうつけられ、しかも幼児はそれによつて暗記してしまひ、絵をみながら自分で話ができるようになり、字も覚えるという一石二鳥の絵本ですから好評のようです。

話に出てくる人物も動物を擬人化してリスのタフティ君、アナグマのバジヤイさん、フクロウのアウル先生などといった人物です。タフティ・ブックは二巻からなつており、第一巻は第一年度の教材で「道路の安全な通行について」、第二巻は第二年度に使用されるもので「主として家庭に

### 絵と歌をまじえてたのしく

タフティ・ブックは月一話となつて、一月から十二月までの月名がつけられ、それぞれの月の季節にあつた道路交通の安全について話が創作されています。たとえば雪の降る月には雪にちなんで、また雨の降る月には雨にちなんだ歌や話と



雨の夜の四重衝突(第五回写真コンテスト 石和警察署交通課撮影)

②基本を反復し、しつぷりな程くり返して習慣づけようとする。  
③そのため、幼児らが受容できる事項かどうかを研究し、その確信の上になつた方法、課程、内容で行なつていく。  
④あくまで幼児本位で、幼児の心理、特性を研究し、それに合わせた豊富な教材が用いられている。  
⑤整備された推進体制上で行なわれて、行政機構などは「手伝うもの」として運営にまかせる。

おける安全な行動について、が内容となつており、そして、これをテキストとして「タフティ・クラブ」が広く結成されており、①幼児教育は母親教育である

物語りに出てくるのはアナグマのお巡りさんバジヤイ、フクロウのアウル先生、リスのタフティ君、ウサギのポビー君、イタチのウイリー君、モグラのミニ君たちという、なじみやすい人物で、一月の雪合戦から

## 第六回交通安全写真コンテスト募集要綱

締め切りは八月三十一日

◇趣旨  
交通安全の写真を通じて、交通安全に対する理解と関心を高めるとともに、この写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するた

第一部 一般的に交通の場面を撮影したもの(道路交通の状況、よい交通、悪い交通、交通安全教育、交通安全の状況、交通安全の啓蒙指導に資するもの)を撮影したもの。  
第二部 交通事故現場の状況(極端に悲惨な事故現場のスナップ

◇印刷  
第一部 第二部とも白黒およびカラープリント。  
◇サイズ  
白黒、カラーともキャビネ以上四つ切りまで。  
◇締切  
昭和四十七年八月三十一日(当日消印有効)  
◇送付先  
甲府市丸の内一丁目六一(千四〇〇) 財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 〇五五二 〇二二二(内線三二八)  
◇発表  
昭和四十七年九月中旬  
◇審査員  
主催者、後援者の各関係

委員および主催者の委嘱する写真専門家。  
◇賞  
第一部 最優秀賞(白黒カラーを通じて) 一名  
山梨県交通安全協会賞状  
賞金二万円  
金賞賞金五千円 二名  
銀賞賞金三千円 二名  
銅賞賞金二千円 二名  
佳作賞金千円 若干名  
選外 記念品 全員  
佳作以上に対しては、山梨県写真材料商協同組合並びに富士写真フイルム株式会社に副賞を贈呈する。  
第二部 第一部に同じ。  
◇応募規定  
(1)応募作品は未発表のもの

ので、他に発表予定のないものに限ります。(撮影の時期は問いません。)  
(2)応募作品には必ずネガを添えて提出してください。(ネガの提出のないものは、入賞することはありません。)  
(3)応募作品およびネガは返却いたしません。  
(4)応募作品の著作権は、主催者に属するものとします。  
(5)応募作品の裏面には、必ず応募票をはつてください。  
(6)応募票には、  
イ住所 職業  
ハ氏名 二年令  
ホ第一部、第二部の別へ題名(事故写真につ

◇主催  
財団法人山梨県交通安全協会  
◇後援  
山梨県警察本部  
山梨県社会部記者会  
山梨県交通安全母の会連合会  
◇協賛  
山梨県写真材料商協同組合  
同組合  
富士写真フイルム株式会社



「追越し禁止」  
車両が追越しのため右側部分にはみ出して通行することを禁止する道路標識です。(規制標識)

「前方優先道路」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。

「規制予告」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。

「追越し禁止」  
車両が追越しのため右側部分にはみ出して通行することを禁止する道路標識です。(規制標識)

「前方優先道路」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。

「追越し禁止」  
車両が追越しのため右側部分にはみ出して通行することを禁止する道路標識です。(規制標識)

「前方優先道路」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。

「規制予告」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。

「追越し禁止」  
車両が追越しのため右側部分にはみ出して通行することを禁止する道路標識です。(規制標識)

「前方優先道路」  
道路標識の定めがありませんで、改正法施行後の追越し禁止は、この道路標識だけで行なわれます。



誓いも新たに交通安全祈願祭 恒例による山梨県交通安全協会の交通安全祈願祭は、1月10日武田神社において行なわれました。森永山梨県警察本部長、中村山梨県交通安全協会会長をはじめ、協会幹部が参加して県民の交通安全を祈願するとともに、今年こそ、全力をつくして交通事故防止にあたることを神前に誓いました。

